

# 歴史ある 札幌の寺社

並びに

## 中島公園

(都会のセンターパーク：茶室)



札幌&北海道コンシェルジュセンター  
Jエコツアー（株）／北海道ガイドテキスト

## 札幌の寺社

寺社は、開拓の大きな原動力になりました。例えば札幌から中山峠を経て道南と結ぶ国道230号線の原型は、東本願寺の発意によって開かれたものであり、「本願寺道路」と呼ばれ。その記念碑が平岸天神山中腹に建てられています。

## 中島公園（スイス、レマン湖のあるリゾート都市ローザンヌと似ている景色）



190万の人口を誇る都市「札幌」の中心部にあるこの公園は自然の川が公園内に流れる北海道らしい、自然と文化あふれる公園であり、世界的にみても貴重である大通公園とともに都市中心部に拡大な面積で立地する。

大通公園が開拓の歴史に基づく、偉人たちを表現し、文化的な側面で中島公園に自然の川、日本庭園：文化的な茶室や豊平館、天文台、文学館、それらを取り囲む、人物像やオブジェ北海道と樹木を配置し、大自然の中の大都市札幌を象徴的に表現しているとも考えられる。



### 八窓庵

豊平館の右隣り、深い木につつまれ、ひっそりと建っている。散策路からちょっと死角になっているので、気づかずに通り過ぎる人が多い。見たところ、どこぞの楽隠居が住んでいそうな昔風の木造平屋だ。

江戸初期、小堀遠州が造ったと伝えられる茶室で、国の重要文化財である。秀吉、家康に仕えた遠州は、江戸前期の最もすぐれた茶人にして大名。築・造園の名手で、江戸城や御所などの建築に携わった。

窓が八つあることから八窓庵と名前づけられたというこの茶室は、もともと遠州の居城・江州（滋賀県）にあった。大正八年に札幌へ移設された。

正面に「忘筌」扁額が掛かっている。荘子の句で「理を悟って教えを忘れる境地」の意。露地の白い小さな石には、竹ぼうきで掃いた筋目が渦巻状についている。それをうっかり踏んで、ガードマン氏に叱られた。指さす方を見ると「砂利を踏まないよう飛び石の上を歩いてください」の張り紙があった。おかげで、国の重要文化財であることが実感できた。



### 日本庭園

中島公園の石灯籠に、目を留めたことがありますか？

偉そうに言いましたが、計画的に造られた日本庭園と、そこに配された石灯籠についてミステリー紛いの物語が秘められていることも——。

この辺り、昭和三十年頃は建築用の樹木を育てる苗圃で、花壇に囲まれた相撲の土俵もあったという。当時の未開発地域だったわけで、ここに市民の憩いの場として大規模な日本庭園を造ることにし、二年かけて完成した。「幸い水に恵まれた場所柄、日本庭園の基本的型式といえる築山林泉回遊式とし、奥山に発した流れが瀬を走り、淵に寄り、平野を流れ、沼に休み、やがて大海に注ぐまでの自然風景を縮景し……」

敷地に植えられた木と花は、道内各地から苦勞して集めたオンコ、トドマツ、ツツジ類など40種、1400本。北海道の山野の色を念頭においた。